

# Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより  
第92号

## ななえ古写真物語

VOL. 92

### 紅葉橋

忘れられた散策路  
昭和初期か？  
大沼国定公園



大沼・小沼・蓴菜沼。七飯町を代表する景勝地である大沼国定公園は、この3つの湖を中心に湿地が広がり、明治期から本格的な観光地として栄えてきました。また、湖に点在する島々は、駒ヶ岳の噴火によって形成されたもので、秋田県の象潟や宮城県の大島になぞらえるなど、美しい景観として知られ、今でも多くの観光客の目を楽しませています。

公園として発展し始めた大沼では、明治後半から、島々に25基をこえる橋が架けられました。時には、景色を堪能しながら散策したり、また、橋自体が風流な雰囲気を出し、記憶へ彩りを添えたことでしょうか。その様子は絵葉書にも多く使われ、過去に執筆した「ピチャリ」でも幾つか紹介してきました。

今回紹介するのも、その中の1枚ですが、この写真を見て大沼の風景だとわかる人は少ないでしょう。コウホネの葉が展開する湖上で舟遊びをしている人たち、その後ろには浴衣を着た男性2名と着物姿の女性が、橋の上に立っているのがみられます。男性はともに同じ浴衣姿なので、どこかの旅館の宿泊者だったのでしょうか。旅先の思い出を写したこの写真には「紅葉橋」と記されていました。

さて、この紅葉橋がどこにあるのかというと、大沼と小沼が繋がっている「セバット」と呼ばれるあたりで、小沼側の島になります。ちょうど、冬期間に白鳥を観察できる「白鳥台セバット」から見えるあたりなのですが、今は、この場所を散策で訪れる人影を見ることはなくなりました。そのひとつの理由として、線路を渡って小沼側へ向かうルートが減ったこと、さらには、周遊道路内での観光が多くなったことも挙げられます。

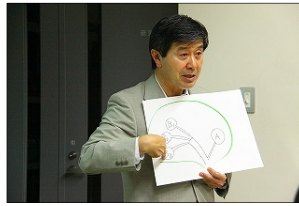
ちなみに、ピチャリ第41号で、蓴菜沼がかつて小沼と呼ばれていたことに触れましたが、当時の小沼は「大沼」の一部として扱われていました。このことは、当館所蔵の町指定文化財「峠下村絵図」を見ても明らかで、安政年間（江戸末期）に描かれたこの絵図で、小沼に相当する箇所には「大沼」と記されています。現在も、大沼と小沼が繋がっていることを考えれば、こういった理由で、小沼として分けるようになったのかは、わかっておりません。

暦の上では、秋が始まりました。小沼の紅葉を楽しみつつ、忘れられた散策路が現在どのようになっているのか、小沼とされた謎ときを兼ね、確かめなくてはいいけません。

## 9月の予定

### 1日

夜の博物館第二夜は、函館植物研究会幹事長の宗像氏を講師にお招きし「植物の秘密」について、お話いただきました。フキノトウの雄花・雌花の見分け方や、花が特定の虫たちを呼び寄せる仕組み、ツククサの謎など、身近な植物でも、一年を通じて観察することで、今まで気づかなかった生態を学ぶことが出来る。そのことに改めて気づき、身の周りの環境を見る目を広げてくれる講座になりました。



### 25日

小学4年生以上を対象にした「昆虫採集・標本づくり教室」を開催しました。ところが、残念なことに雨がふってしまったので、採集は断念し、標本づくりのみの挑戦となってしまいました。「道南虫の会」所属の井本氏の指導を受けながら、展翅板を用いて、針でチョウの翅を広げて固定します。あまりにも繊細な作業に、はじめは戸惑っていましたが、徐々に慣れてきて、上手に展翅していました。虫捕りを通じて子どもたちには、生きものの多様性と郷土の自然を感じてもらえればと思います。



### 30日

ジュニア探検クラブで、北海道埋蔵文化財センターで調査している木古内町の幸連3・4遺跡の見学と体験発掘に挑戦しました。

まずは、土器や石器や住居の跡などを見学し、いよいよ体験発掘です。作業をしている方に、指導してもらいながら、移植ゴテで土をほっていくうちに「何か出た!」という声が、長年土の中で眠っていた遺物たちと対面し、古代のロマンを感じつつ、炎天下で行われる発掘作業の大変さも経験したのではないのでしょうか。ご協力いただいた関係者の皆さまには、この場をかりてお礼申し上げます。

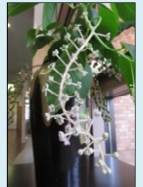


1	火
2	水 夜の博物館
3	木
4	金
5	土
6	日
7	月
8	火
9	水
10	木
11	金
12	土
13	日
14	月
15	火
16	水
17	木
18	金
19	土
20	日
21	月 敬老の日
22	火 国民の休日
23	水 秋分の日
24	木
25	金
26	土 ジュニア探検クラブ
27	日 ふぁみりーでいみゅーじあむ
28	月
29	火
30	水

9月の休館日はありません。

### ヨウシュヤマゴボウ

当館の畑の周りには、ヨウシュヤマゴボウが自生している。かわいいので館内も飾っているが、有毒植物なので、実は食べないようにご注意ください！



### 編集後記 ~tawagoto~

当館の周辺では連日の蝉しぐれ。どうやら今年、セミの当たり年のようです。私はというと、壁にへばりつくアブラゼミを眺めながら、日増しに涼しさをまとう風を感じ、早くも秋の到来を切望している所ですが、一方で、今年も虫たちにあまり会いにいかかったことを自戒しています。

忙しかっただけ、来年こそは・・・などと、都合の良い言い訳を探している私の頭上で、今日もセミたちが猛々しく鳴いている。(やまだひさし)

Richard ~ピチャリ~ 第92号

平成27年8月20日 発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail: rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp